

資料No. 3 - 1

感染症定期報告の報告状況

感染症定期報告の報告状況(医療機器 平成18年4月1日～平成18年9月30日)

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
1	2006/4/12	68001	日本メトロニック株式会社	人工血管付ブタ心臓弁 ブタ心臓弁	ブタ心臓弁	ブタ大動脈弁及び大動脈基部	米国	組成・構造	有	無	無	HEV	J Infect Dis 2005; 192: 1166-1172	英国で1996年から2003年にかけて、E型肝炎の186症例について血清学的診断を行った。この中で17症例(9%)は最近の外国旅行とは関連していなかった。この患者は56歳以上(56～82歳の範囲)で男性の方が多かった(76%)。患者2例は劇症肝炎の症状を呈した。計129症例(69%)はHEVが高度に流行している国々への最近の旅行と関連していた。旅行関連疾患の患者と比較して、旅行に関連しない疾患の患者は高齢である傾向があり、海岸地帯又は河口地域に居住し、東南アジア系の民族ではなく、HEVの遺伝子型3株に感染していた。遺伝子型3はイギリスのブタに近縁のヌクレオチド配列を持ち、ブタがウイルス保有宿主である可能性がある。
												レンサ球菌感染	Science 2005; 309: 1308-1309	WHOが中国でのブタ由来の感染症について調査した。中国衛生部の報告によると中国四川省で流行した感染症は2005年7月中旬がピークで、同年8月5日以降は新たな感染例はない。ブタは600頭以上が死亡し、ヒトでは感染例204例のうち38例が死亡した。ほぼ全ての患者が、病気のブタとの接触があった。ヒトとブタの検体を調べたところ、Streptococcus suis serotype 2の存在が確認され、その他の細菌やウイルスは認められなかった。当局によるとヒトからヒトへの伝播は見られなかった。WHOによると、新しい変異型か毒性の強い2型serotypeかは今のところ明らかではない。
												インフルエンザ	J Virol 2005; 79: 10821-10825	2004年にベトナムのブタにおいてH5N1型トリインフルエンザウイルスに関する血清学的検査を行った。ブタ血清3175例中、8例(0.25%)が陽性であった。2004年アジアH5N1型ウイルスのブタでの感染実験の結果、ブタ-ブタ間の伝播は簡単には起こらないことが示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	Clin Infect Dis 2006; 42: 14-20	養豚業が米国第1位のアイオワ州において、ブタに曝露された複数のヒト集団について過去のブタ・インフルエンザウイルス感染のエビデンスを検討した。2002～2004年の間に採取された血清サンプルを用いて、111名の養豚業者、97名の食肉処理業者、65名の獣医師及び79名の対照被験者を対象とする、比較対照横断的血清疫学調査を実施した。血清サンプルは、ブタ及びヒトから最近分離された6つのインフルエンザAウイルス株に対する血球凝集抑制試験により検査した。その結果、ブタへの職業的曝露により、労働者のブタ・インフルエンザウイルス感染のリスクが大幅に増大することが明らかとなった。養豚業者は流行病調査並びに抗ウイルス薬及び予防接種戦略に含まれるべきである。
2	2006/4/12	68002	日本メトロニック株式会社	ヘパリン使用人工心肺用回路システム ヘパリン使用大腿動静脈カニューレ ヘパリン使用人工心肺用貯血槽 ヘパリン使用単回使用遠心ポンプ ヘパリン使用体外式模型人工肺 ヘパリン使用大動脈カニューレ 人工心肺装置の付属品(貯血槽) 人工心肺装置の付属品(心内血貯血槽) 人工心肺装置の付属品(流量測定用コネクター) 模型人工肺 人工心肺用血液回路 人工心肺用ポンプ	ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	組成・構造	有	無	無	HEV	J Infect Dis 2005; 192: 1166-1172	英国で1996年から2003年にかけて、E型肝炎の186症例について血清学的診断を行った。この中で17症例(9%)は最近の外国旅行とは関連していなかった。この患者は56歳以上(56～82歳の範囲)で男性の方が多かった(76%)。患者2例は劇症肝炎の症状を呈した。計129症例(69%)はHEVが高度に流行している国々への最近の旅行と関連していた。旅行関連疾患の患者と比較して、旅行に関連しない疾患の患者は高齢である傾向があり、海岸地帯又は河口地域に居住し、東南アジア系の民族ではなく、HEVの遺伝子型3株に感染していた。遺伝子型3はイギリスのブタに近縁のヌクレオチド配列を持ち、ブタがウイルス保有宿主である可能性がある。
												レンサ球菌感染	Science 2005; 309: 1308-1309	WHOが中国でのブタ由来の感染症について調査した。中国衛生部の報告によると中国四川省で流行した感染症は2005年7月中旬がピークで、同年8月5日以降は新たな感染例はない。ブタは600頭以上が死亡し、ヒトでは感染例204例のうち38例が死亡した。ほぼ全ての患者が、病気のブタとの接触があった。ヒトとブタの検体を調べたところ、Streptococcus suis serotype 2の存在が確認され、その他の細菌やウイルスは認められなかった。当局によるとヒトからヒトへの伝播は見られなかった。WHOによると、新しい変異型が毒性の強い2型serotypeかは今のところ明らかではない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	J Virol 2005; 79: 10821-10825	2004年にベトナムのブタにおいてH5N1型トリインフルエンザウイルスに関する血清学的検査を行った。ブタ血清3175例中、8例(0.25%)が陽性であった。2004年アジアH5N1型ウイルスのブタでの感染実験の結果、ブタ-ブタ間の伝播は簡単には起こらないことが示された。
												インフルエンザ	Clin Infect Dis 2006; 42: 14-20	養豚業が米国第1位のアイオワ州において、ブタに曝露された複数のヒト集団について過去のブタ・インフルエンザウイルス感染のエビデンスを検討した。2002~2004年の間に採取された血清サンプルを用いて、111名の養豚業者、97名の食肉処理業者、65名の獣医師及び79名の対照被験者を対象とする、比較対照横断的血清疫学調査を実施した。血清サンプルは、ブタ及びヒトから最近分離された6つのインフルエンザウイルス株に対する血球凝集抑制試験により検査した。その結果、ブタへの職業的曝露により、労働者のブタ・インフルエンザウイルス感染のリスクが大幅に増大することが明らかとなった。養豚業者は流行病調査並びに抗ウイルス薬及び予防接種戦略に含まれるべきである。
3	2006/4/13	68003	ボストン・サイエントフィックジャパン株式会社	ヘパリン使用心臓用カテーテル型電極	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	アメリカ合衆国/カナダ	組成・構造	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO H5N1 avian influenza: timeline 2005年10月28日	中国の研究者による、ブタにおけるH5N1トリインフルエンザの感染の予備的調査結果では、ブタの感染は広がっているとの証拠はなく、また、調査結果は、疫学的にそれほど重要ではないと思われる。
4	2006/4/25	68004	エドワーズライフサイエンス株式会社	ウシ心のう膜弁	ウシ心のう膜	ウシ心のう膜	米国	組成・構造	有	無	無	結核	ミネソタ州動物保健局 Bovine Tuberculosis Current Updates 2006年2月15日 (http://www.bah.state.mn.us/diseases/tuberculosis/current_updates.htm)	2005年2月、ウシ結核の疑いがある5歳のウシが同定された。感染群と関連のある群の隔離・検査が行われ、検査陽性群については処分、陰性群はリリースが実施されている。検査により5群のウシ結核感染群が発見されたため、USDAはミネソタ州のウシ結核ステータスを「Modified Accredited Advanced」へ格下げした。現在、引き続きウシ結核感染群の追跡および検査が実施されている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ブルセラ症	ISDA News Release (http://www.agri.state.id.us/Categories/NewsEvents/Documents/PressReleases/USDAChanges%20to%20classa.pdf)	USDAは、アイダホ州のブルセラ症ステータスの「クラスA」への格下げを通知した。ブルセラ症病原菌は調理や低温殺菌により容易に死滅することから、牛肉消費者にリスクはないと考えられる。10月にブルセラ症感染個体が発見された後、更なるブルセラ症陽性個体は見つかっていない。
5	2006/5/2	68005	ホスピーラ・ジャパン株式会社	ヘパリン使用中心静脈用カテーテルイントロデューサーキット ヘパリン使用酸素飽和度モニタ付サーモダイリユーション用カテーテル	ヘパリンナトリウム	豚の腸粘膜	アメリカ、カナダ	組成・構造	有	無	無	寄生虫感染	養豚の友 2006年9月号: 58-60	トリヒナの成虫は豚などの小腸粘膜に寄生する。寄生による症状は、腸トリヒナ症期では食欲不振、嘔吐が起こり、筋トリヒナ症期では急性筋炎による激しい筋肉痛を伴う、咀嚼・嚥下・発声・呼吸・歩行困難のほか、発熱・発疹が起こる。2005年2月ロシアでアナグマの肉料理を食べた住民25名が入院、内6名が重篤となった。2005年、北海道のアライグマからトリヒナが検出された(北海道新聞2005年5月12日)。日本の豚における筋トリヒナ検出は不詳である。
												細菌感染	北獣会誌 2005; 49: 83	リステリア属菌(以下リ菌)の一部の菌種はヒトや動物に髄膜炎や敗血症を引き起こし、食中毒の原因菌として知られている。本調査で分離したL. monocytogenes(Lm)全株が、ヒトリステリア症から高率に分離される血清型であった。十分な生体洗浄により農場から屠畜場内への汚染拡散を最小限に抑制することが可能である。本調査で最も高率に分離されたL. ivanoviiは、病原性を有さず、リ菌の中で家畜から最も高率に分離されるとの報告からも、農場から屠畜場、さらに流通過程までの総合的な汚染指標菌として有効である。
												寄生虫感染	Vet Parasitol 2005; 131: 207-211	原生動物Toxoplasma gondii感染症は温血動物に広く世界中に見られる。臨床的トキソプラズマ症を発症する成人感染例はほんの僅かであるが、豚肉がその感染源として最も重要である。ブラジル、サンパウロ州で屠殺前のブタから、初めて、生きたT. gondiiが分離された。ブラジルのブタ由来T. gondii分離株は、表現型的にも遺伝型的にも米国のブタ由来分離株とは異なり、病原性が高い。
												HEV	CDR Weekly 2005; 15(45)	英国保健省はWelsh National Public Health Serviceらと共同で、HEV流行地域への旅行に無関係なHEV感染患者の地域的、臨床的、分子疫学的特徴に関する研究を行った。1996年から2003年の間にE型肝炎と血清学的に診断された186例中、外国旅行に関係していない感染者は17例で、全て英国のブタのHEV株、遺伝子型3型に感染していた。本所見からE型肝炎はイングランドおよびウェールズに固有の型であることが示唆された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HEV	消化器科 2005; 41: 161-167	E型肝炎は、本州ではgenotype IIIの症例が多いのに対し、北海道ではgenotype IVの報告例が多い。しかし、北海道のブタあるいは市販の豚肝から検出されたHEVは逆にgenotype IIIが多い。このことから次の可能性が考えられる:①暴露機会としてはHEV genotype IIIが多いが、その感染が無症候あるいは軽症で経過しており、症例が見逃されている、②いまだ判明していないHEVのリザーバーや感染契機があり、実際にはgenotype IVの暴露機会の方が多い。酪農畜産業者および食肉解体処理、流通に関与している職種の症例はなかった。E型では、生あるいは生焼けで豚内臓肉摂取をしたり、若しくは十分に加熱したかどうか記憶が定かでない症例が32例中11例あった。
												HEV	消化器科 2005; 41: 179-184	Effective population sizeの解析からHEV genotype IIIとIVの分岐時期(HEVが本邦に入った時期)を推定すると、両タイプとも約100年前に遡る。大正(1912年)から昭和初期にわたるブタの飼養は、本邦における1900年以降のブタの普及とHEV感染の拡散が関与している可能性を示唆し、HEV感染は、人畜共通感染症として、ブタからヒトへの感染がクローズアップされている。
												HEV	消化器科 2005; 41: 173-178	日本人がHEVに感染する機会は少なくとも3通り明らかにされている:①外国のE型肝炎流行地域旅行中の感染②豚肉、鹿肉、猪肉など生肉の摂食を介した感染③輸血を介する感染である。②が直接の原因と考えられる症例は世界全体では少ないが、日本からの報告が飛びぬけて多い。急性E型肝炎患者が少ないにも関わらず、抗HEV抗体保有率は意外に高く、不顕性感染が多いと考えられ、特に養豚での抗体保有率は非常に高い。ニフトリで見つかったウイルスはavian HEV (aHhEV)と呼ばれるが、ヒトへの感染の可能性は極めて少ない。1, 2型HEVはE型肝炎流行地(1型は東南アジアから中近東、アフリカ各国、2型はメキシコ)に常在し大流行、散発的流行の原因となっている。3, 4型は、非流行地域の散発的発生の原因となる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HEV	消化器科 2005; 41: 149-155	HEVはアジアにおける流行性肝炎の最も重要な病原ウイルスと位置づけられ、主に糞便に汚染された水を介して流行する。2001年には日本でも海外渡航歴のない症例から日本固有と考えられる株(JRA-1株)が報告された。HEVは肝炎ウイルスとしては唯一の人畜共通感染症であり、ブタが宿主とされている。ブタレバーを十分に加熱しないで摂食した場合、HEVに感染しE型肝炎を発症する可能性が濃厚で、このことが立証された死亡例が報告されている。西日本ではホルモン料理には主に牛を用いるが、北海道や東北地方では、ブタのホルモンやブタレバーを好んで食する風習があり、このような食習慣の違いが「東高西低」といわれるE型肝炎の発生状況と無縁ではない。
												HEV	京府医大誌 2005; 114: 511-516	10例のE型肝炎例中9例が、発病前の2ヶ月の間にブタ肝臓を摂取しており、非E型肝炎患者22例ではそのような既往はなかった。衛生環境の整っているわが国では、一般的には、食肉からの汚染の防止や、生食を避け、よく過熱するなどの注意により、ほとんどの感染は防げると思われる。
												寄生虫感染	養豚の友 2006年1月号: 58-61	ブタでの多包虫の発育は悪く、ほとんどが変性した虫体になり、家畜では多包虫の中間宿主としての役割を果たさないものと考えられている。1992年のデータでは、ブタの多包虫感染率0.09%。ヒトに感染した場合は重篤な経過をとる。大部分が包虫として肝臓に寄生し、包虫のまま外生芽によって増大し、肝実質に進入し、肝臓を破壊し続ける。肺、脳などに転移して二次病巣を生じる。全国的に蔓延・拡大する危険があり、最も注目すべき人獣共通感染症と思われる。治療は、外科的摘出に頼るのみである。
												寄生虫感染	養豚の友 2005年10月号: 62-66	豚囊虫は豚肉を介して人に感染し、人の脳などに寄生する危険な寄生虫として知られている。豚への感染は、人の小腸に寄生する成虫(有鉤条虫)から産出される虫卵の摂取による。豚筋肉内の囊虫は、人においても同様に筋肉などに囊虫を形成するが、人での囊虫は、特に脳に集積する傾向があり、癲癇などの致命的な症状を示す。予防は、人の糞便を確実に始末し、豚が摂食しないようにすることに尽きる。治療は、メベンダゾールなどの高濃度連続投与による駆虫、もしくは外科的摘出が行われる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HEV	J Infect Dis 2005; 192: 1166-1172	英国保健省はWelsh National Public Health Serviceらと共同で、HEV流行地域への旅行に無関係なHEV感染患者の地域的、臨床的、分子疫学的特徴に関する研究を行った。1996年から2003年の間にE型肝炎と血清学的に診断された186例中、外国旅行に関係していない感染者は17例で、全て英国のブタのHEV株、遺伝子型3型に感染していた。本所見からE型肝炎はイングランドおよびウェールズに固有の型であることが示唆された。
												ウイルス感染	科学 2005; 75: 1352-1355	1998年から99年にかけて、激しい呼吸器症状や脳炎等を示す265人の患者と107人の死者(致死率40%)を出したニバウイルス感染症が、マレーシアで発生した。自然宿主はオオコオモリ(フルーツバット)であり、オオコオモリからヒトへの直接感染例は認められなかったことから、ブタを介してヒトに感染すると結論付けられた。患者の家族や患者を運んだ人も発症して死亡したことなどから、ヒトからヒトへの伝播も起きたことが強く示唆され、警戒を要している。今回、ニバウイルスとヘンドラウイルスの受容体として同定されたのは、Ephrin-B2という蛋白質であり、これを介してウイルスが進入していることが証明された。病理組織学的所見では、中枢神経系の血管炎と内皮細胞障害が特徴的である。
												細菌感染	Vet Microbiol 2005; 110: 77-85	ヒト、食品、ウシ、およびブタ由来のシガ毒素産生大腸菌における接着遺伝子を同定した。最も広く見られる接着因子はtoxB遺伝子でエンコードされているもので、74分離株中52例に見られた。ブタ由来のO157:NM株は、eaeA遺伝子は持たないが、lpfAO157/OI-154は陽性であることが、初めて証明された。しかし、この因子の、ブタ腸管でのコロニー形成における意義は不明である。
												インフルエンザ	Clin Infect Dis 2006; 42: 14-20	米国アイオワ州で2002年から2004年に、ブタに接触する職業のヒトの血清検体を用いて、動物性インフルエンザウイルス感染について調べ、多変量比例オッズモデルを用いて、対照群(79例)と比較した。農夫群(111例)、獣医群(65例)、食肉処理労働者群(97例)の3群とも、ブタH1N1とH1N2ウイルスについて高い陽性率を示し、農夫群が最も高いオッズを示した。H3N2ウイルスについては3群とも対照群と有意差はなかった。ブタへの職業的暴露はブタインフルエンザウイルス感染の危険性を増大させることが明らかとなった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
6	2006/5/10	68006	株式会社メディコ スヒラタ	ヘパリン使用中心静脈用カテーテルイントロデューサキット ヘパリン使用医薬品投与血管造影用カテーテル ヘパリン使用カテーテルイントロデューサ ヘパリン使用心臓・中心循環系カテーテルガイドワイヤ	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	組成・構造	有	無	無	ブタ連鎖球菌	Communicable Disease Watch 2006. 3. 5	Streptococcus suis(ブタ連鎖球菌)は、感染したブタあるいはその死体との接触により感染する。香港保険局 Centre for Health Protection(CHP)によると、2005年のS.suis感染13例中5例が豚肉販売業者、1例がコックであった。中国保健庁は、四川省では2005年7月に農耕業者9名の死亡を含む100人以上のS.suis感染を報告している。CHPは2006年最初のS.suis感染報告を受けた。患者は69歳の主婦である。
7	2006/6/8	68007	川澄化学工業株式会社	ヘパリン使用人工心肺用回路システム	ヘパリン	豚 小腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
8	2006/6/23	68008	エドワーズライフサイエンス株式会社	ウマ心膜パッチ	ウマ心膜	ウマ心膜	米国	組成・構造	無	無	無			
9	2006/6/27	68009	日本シャーウッド株式会社	ヘパリン使用中心静脈用カテーテル	ヘパリン	ブタ腸粘膜	ブラジル	製造工程	無	無	無			
10	2006/7/4	68010	生化学工業株式会社	ブタ歯胚組織使用歯周組織再生用材料	エナメルマトリックスデリバティブ	幼若ブタの歯胚	スウェーデン	組成・構造	無	無	無			
11	2006/7/4	68011	フォルテグロウメディカル株式会社	ヘパリン使用人工心肺用回路システム	ヘパリン	豚小腸粘膜		組成・構造	無	無	無			
12	2006/8/10	68012	東洋紡績株式会社	滅菌済み開心術用チューブ及びカテーテル 膜型人工肺 補助循環装置	ヘパリンナトリウム	豚小腸粘膜	中国	組成・構造	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月30日 http://www.who.int/csr/don/2005_12_30/en/index.html	トリインフルエンザ(update 51):中国衛生省は中国本土においてH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は南東部のFujian省在住の41才女性で、2005年12月6日に熱とそれに続く肺炎の症状を発症し、2日後に入院し、12月21日に死亡した。12月13日、患者からの検体に関する初期検査はH5N1陰性であったが、12月23日の更なる検査で陽性を示した。患者からウイルスも分離された。医学的監視下に置かれている密接な接触者はいかなる症状も示していないと衛生当局は報告している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月10日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_10/en/index.html	中国におけるトリインフルエンザの状況:中国衛生省は中国で8例目のH5N1トリインフルエンザウイルス感染症のヒト症例を確認した。症例は南部のHunan省出身の6才の男児で、2005年12月24日に熱と肺炎を発症し、現在入院中で症状は安定している。中国当局は以前に公表された症例2例がその後死亡したことも報告した。症例は12月7日に報告されたGuangxi自治区の10才の少女と12月16日に報告されたJiangxi省の35才の男性である。中国における確定症例8例のうち現在5例が死亡している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Weekly epidemiological record 2006; 81: 13	2006年1月10日、中国衛生省は中国で8例目のH5N1トリインフルエンザウイルス感染症のヒト症例を確認した。症例は南部のHunan省出身の6才の男児で、2005年12月24日に熱と肺炎を発症し、現在入院中で症状は安定している。中国当局は以前に公表された症例2例がその後死亡したことも報告した。症例は12月7日に報告されたGuangxi自治区の10才の少女と12月18日に報告されたJiangxi省の35才の男性である。中国における確定症例8例のうち現在5例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html	中国におけるトリインフルエンザの状況(update): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症1例を確認した。症例は中国中南部のSichuan省在住の35才女性で、家禽の屠殺に従事していた。症例は2006年1月3日に発症、1月10日に発熱と肺炎の症状のため入院し、1月11日に死亡した。症例が屠殺作業中に感染したのか、住んでいる村において感染した鳥類への直接的暴露の結果として感染したのかどうかを決定するための詳細調査が実施されている。
												鳥インフルエンザ	カナダ Public Health Agency of Canada/ CCCR 2006年3月15日	2006年2月9日、中国衛生省は同国で11例目となるH5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症の検査確定例1例を報告した。症例は南東部Fujian省出身の26才の農業従事者の女性で、1月10日に発症し、肺炎で入院し、治療中であり、安定した状態である。2006年2月13日、中国衛生省は同国で12例目となるH5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症の検査確定例1例を報告した。症例は南中央部のHunan省出身の20才の農業従事者の女性で、2006年1月27日に発症し、その後重度の肺炎で入院した。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年6月16日 http://www.who.int/csr/don/2006_06_16/en/index.html	中国におけるトリインフルエンザの状況(update 12): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる19例目のヒト感染症例を確認した。症例は香港に近いGuangdong省の31才男性トラック運転手で、2006年6月3日に発症し、入院中であるが、重症の肺炎で危篤である。感染源は調査中であるが、発症前に生きた家禽が売られている市場を数回訪れたことが明らかとなっている。この地域では家禽におけるH5N1感染は公式には報告されていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌性敗血症	ProMED20060412-0060	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経路をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。中国の科学者らは、「ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。」と述べた。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。他の専門家は「トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方がよい」と述べた。
13	2006/8/21	68013	平和物産株式会社	人工心肺用血液回路	ヘパリン	豚小腸	イタリア	組成・構造	無	無	無			
14	2006/8/22	68014	ガンプロ株式会社	ヘパリン使用緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル	ヘパリンナトリウム	豚腸粘膜	中国	組成・構造	有	無	無	鳥インフルエンザ	国立感染症研究所感染症情報センター 2006年6月19日 http://idsc.nih.gov/p/disease/avian_influenza/62who7.html	WHO更新情報-中国におけるトリインフルエンザの状況(update 12):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる19例目のヒト感染症例を確認した。症例は香港に近いGuangdong省の31才男性トラック運転手で、2006年6月3日に発症し、入院中であるが、重症の肺炎で危篤である。感染源は調査中であるが、発症前に生きた家禽が売られている市場を数回訪れたことが明らかとなっている。この地域では家禽におけるH5N1感染は公式には報告されていない。
15	2006/8/16	68015	泉工医科工業株式会社	ヘパリン使用人工心肺用除泡器	ヘパリン	豚小腸粘膜	中国	製造工程	有	無	無	口蹄疫	ProMED-mail20060111.0095 ProMED-mail20060112.0107	ベトナム当局者は2006年1月11日、ベトナム南部で口蹄疫に感染した疑いのあるブタが見つかったと発表した。死亡したブタを調べたところ、コレラであることが判明した。2005年12月中旬以降、約380頭のブタがTien Giang省で死んだ。口蹄疫の流行はないが、数頭のブタは口蹄疫陽性であった。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(4) 2006年1月26日	2006年1月12日、ロシアChitinskaya州Kalgansky地区で、口蹄疫(セロタイプAsia1)が発生した。補体結合試験、ELISA、PCRで陽性であった。ウシ、ブタで死亡例はない。感染源を調査中である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(6) 2006年2月3日	2006年2月3日、ブルガリアYambol州Boliarovo地区で古典的ブタコレラが発生した。ブタの疑い例30頭、死亡例7頭である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	アルゼンチンCorrientes州で2006年2月5日に発生した口蹄疫(セロタイプO)は、ウシ4513頭、ブタ5頭、ヤギ・ヒツジ533頭の被害が出たが、隔離、ワクチン接種、消毒などの措置により、根絶した。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(24) 2006年6月15日	2006年3月1日にドイツNorth Rhine-Westphaliaで発生した古典的ブタコレラは当局の撲滅策の結果、鎮静した。2006年5月9日以降、1例の発生もなく、感染地域からの検体は陰性である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(10) 2006年3月9日	2006年2月22日にブラジルで古典的ブタコレラが発生し、3月6日に確定された。ブタ疑い例131頭、死亡例46頭である。
16	2006/8/16	68016	泉工医科工業株式会社	人工心肺装置の付属品	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国	製造工程	有	無	無	口蹄疫	ProMED-mail20060111.009 5 ProMED-mail20060112.010 7	ベトナム当局者は2006年1月11日、ベトナム南部で口蹄疫に感染した疑いのあるブタが見つかったと発表した。死亡したブタを調べたところ、コレラであることが判明した。2005年12月中旬以降、約380頭のブタがTien Giang省で死んだ。口蹄疫の流行はないが、数頭のブタは口蹄疫陽性であった。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(4) 2006年1月26日	2006年1月12日、ロシアChitinskaya州Kalgansky地区で、口蹄疫(セロタイプAsia1)が発生した。補体結合試験、ELISA、PCRで陽性であった。ウシ、ブタで死亡例はない。感染源を調査中である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(6) 2006年2月3日	2006年2月3日、ブルガリアYambol州Boliarovo地区で古典的ブタコレラが発生した。ブタの疑い例30頭、死亡例7頭である。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	アルゼンチンCorrientes州で2006年2月5日に発生した口蹄疫(セロタイプO)は、ウシ4513頭、ブタ5頭、ヤギ・ヒツジ533頭の被害が出たが、隔離、ワクチン接種、消毒などの措置により、根絶した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	OIE Disease Information 19(24) 2006年6月15日	2006年3月1日にドイツNorth Rhine-Westphaliaで発生した古典的ブタコレラは当局の撲滅策の結果、鎮静した。2006年5月9日以降、1例の発生もなく、感染地域からの検体は陰性である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(10) 2006年3月9日	2006年2月22日にブラジルで古典的ブタコレラが発生し、3月6日に確定された。ブタ疑い例131頭、死亡例46頭である。
17	2006/8/16	68017	泉工医科工業株式会社	人工心肺装置の付属品	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国	製造工程	有	無	無	口蹄疫	ProMED-mail20060111.0095 ProMED-mail20060112.0107	ベトナム当局者は2006年1月11日、ベトナム南部で口蹄疫に感染した疑いのあるブタが見つかったと発表した。死亡したブタを調べたところ、コレラであることが判明した。2005年12月中旬以降、約380頭のブタがTien Giang省で死んだ。口蹄疫の流行はないが、数頭のブタは口蹄疫陽性であった。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(4) 2006年1月26日	2006年1月12日、ロシアChitinskaya州Kalgansky地区で、口蹄疫(セロタイプAsia1)が発生した。補体結合試験、ELISA、PCRで陽性であった。ウシ、ブタで死亡例はない。感染源を調査中である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(6) 2006年2月3日	2006年2月3日、ブルガリアYambol州Boliarovo地区で古典的ブタコレラが発生した。ブタの疑い例30頭、死亡例7頭である。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	アルゼンチンCorrientes州で2006年2月5日に発生した口蹄疫(セロタイプ0)は、ウシ4513頭、ブタ5頭、ヤギ・ヒツジ533頭の被害が出たが、隔離、ワクチン接種、消毒などの措置により、根絶した。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(24) 2006年6月15日	2006年3月1日にドイツNorth Rhine-Westphaliaで発生した古典的ブタコレラは当局の撲滅策の結果、鎮静した。2006年5月9日以降、1例の発生もなく、感染地域からの検体は陰性である。